

令和4年4月
一橋大学

令和4年度一橋大学外国学校出身者選抜学力試験

出題の意図等 【小論文】

課題文は、移民に関する論考であり、近年におけるアメリカの移民の減少傾向を論じている。多くの人が魅力的なインセンティブを示されても結局は慣れ親しんだ土地を離れないことを踏まえつつも、移民は地域あるいは国の生活水準を引き上げる重要な手段であることを理解する必要がある。その認識を持ちながら日本における移民・移住政策を考えてもらうことが出題の意図である。

問一

この設問では、低学歴・低技能労働者がなぜ都市部に移動しないのかを理解して丁寧に説明できるか否かが評価のポイントとなる。

問二

この設問では、多くの労働需要、安い賃金を求めて企業がなぜ地方に進出してこないのかの理由を本文に即して丁寧に説明できるか否かが評価のポイントとなる。

問三

本文では直接触れられていない、移民・移住の政策と関係する日本が直面する課題について、具体的に設定することがまずは重要なポイントとなる。例えば、人口減少、高齢化、地方経済の低迷などの課題が考えられよう。その上で、他国からの移民や、国内の例えば都市部から地方への移住などに関する政策の是非について、経済合理性、政治的要因、文化的要因など、本文の論点を踏まえながら独自の考察を丁寧に展開できるか否かが評価のポイントとなる。

解答例

問一

低学歴・低技能労働者の賃金が都市部で大幅に増えることは期待できない一方、家賃などの生活費は都市部の方が高いため、実質収入ベースではむしろ低下する。都市近郊への移住については、住宅の供給がすぐには増えず、また結局は郊外からの長い通勤時間を要する。都市の土地規制は厳しく住宅の家賃は一層高くなるが、景気の悪化の影響は、都市部より家賃は低いか、持ち家を持てる地方の方が小さくて済む。さらに、育児を考えると、都市部は公的補助なく私立の育児施設の利用料が高い。このため低賃金労働者は親族に頼る必要があり、万一の失業を考えると、頼れる親族がいる地元は見知らぬ都市への移住よりも魅力的となる。

問二

企業が群れをなして進出し、あらゆる商業施設や娯楽施設が一通り揃っていないと高学歴の若い労働者が大勢やってくることは期待できない。このため、一社だけが進出しても成功の見込みは薄く、企業が群れを成して進出する必要がある。加えて、こうした地理的な集積は、評判の上でも、雇用の上でも企業にとって有利となる。さらには同じ産業に従事する労働者の好みも似てくるため、同じ産業に属す企業が同じ地域や区画にかたまることの利点は大きくなる。しかし、そうした誘致に十分な資金を投じる事業はまれである。以上のことから、地方への進出は企業にとって難しい。